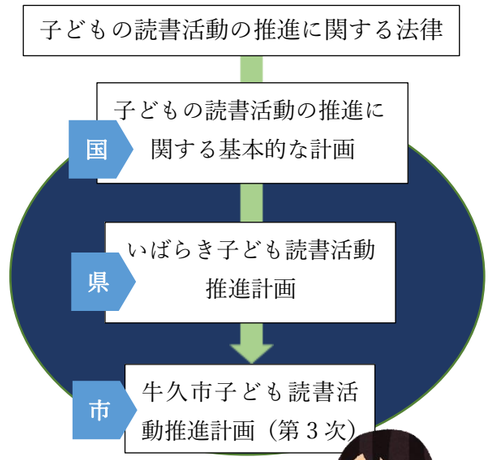
牛久市子ども読書活動推進計画（第3次）

計画策定の趣旨

この計画は、市内の子どもの読書活動を推進するため、成長に応じた読書活動を支援し、総合的に子どもの読書環境を整備していこうとするものです。本市においては、子どもの視点に立った読書推進を図るため、平成 30 年３月策定の「牛久市子ども読書活動推進計画（第２次）」を改訂し、「牛久市子ども読書活動推進計画（第３次）」を策定することといたしました。

計画の位置づけ

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び県の「いばらき子ども読書活動推進計画」を基本として、本市の子どもの読書活動の状況等を踏まえて策定するものです。



計画の対象

０歳から 18 歳まで

計画の期間

令和５年度から令和９年度まで
【５年間】

計画の基本理念

すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう積極的に環境の整備を推進します。

計画の基本方針

（１）子どもが読書に親しむ機会の提供
（２）家庭、地域、学校などを通じた社会全体での取組みの推進
（３）子どもの読書活動への理解と関心を高めるための普及活動の実施

牛久市教育委員会

編集：牛久市立中央図書館　029-871-1400

計画の体系

基本理念

環境を整備して、自主的に読書活動を推進する子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において積極的に行うことができるよう

基本方針

（1）子どもが読書に親しむ機会の提供
（2）家庭、地域、学校などを通じた社会全体での取組みの推進
（3）子どもの読書活動への理解と関心を高めるための普及活動の実施

主な方策		実施主体
ブックスタート事業の推進	継続	中央図書館
定例おはなし会の開催	継続	中央図書館、ボランティア
各種講演会・イベントの開催 －ティーンズおはなし会	見直し	中央図書館、地域
地域に伝わる昔話の伝承の推進	継続	中央図書館、ボランティア
児童図書・YA(ヤングアダルト)コーナーの充実	拡充	中央図書館、保育園、幼稚園、小・中学校等
市内子育て・教育施設の支援	継続	中央図書館
うちどく（家読）の実施・事業の推進	拡充	家庭、中央図書館
「学校図書館ネットワーク」の積極的な活用・事業の推進	継続	小・中学校等、指導課、学校教育課、中央図書館
読書意欲と読書力の育成・向上 －みんなにすすめたい一冊の本推進事業	継続	小・中学校等
読書を楽しみ、読書を通した交流の推進	継続	小・中学校等、高等学校
読み聞かせ・おはなし会の実施	継続	地域、ボランティア
各種講演会・イベントの開催 －(こども)としょかんまつり	見直し	中央図書館
読書意欲と読書力の育成・向上 －図書の紹介	継続	小・中学校等
読書を楽しみ、読書を通した交流の推進 －読書週間行事実施 －うちどく（家読）の勧奨	継続	小・中学校等
子どもの読書活動推進や、図書館利用促進のための啓発・広報	拡充	中央図書館
読書手帳の普及の推進	継続	中央図書館

第２次計画の成果

牛久市では、計画策定時の現状把握と、今までの取り組みの成果結果を測るため、アンケート調査を実施しています。

第３次計画のためのアンケート調査は、市内の「2 歳児保護者」「5 歳児保護者」「小学校２年生とその保護者」「小学校５年生とその保護者」「中学校２年生とその保護者」「高校２年生」※を対象に、９月に行いました。※適宜、義務教育学校生を含みます。

子どもは本が好き？

アンケート調査において、「本が好き」だと答えた割合は第２次計画策定時とほぼ変わりなく、年齢が上がるにつれ低くなっていく傾向があります。しかしながらその割合は小学生が８割越え、中高生で６割越えと高い水準で「本が好き」であることがわかりました。

一方で、今回のアンケートの回答傾向として小学５年生のみ、この割合が大幅な減少傾向にあり、今後の読書習慣につなげていくためのより一層の支援・対策が求められます。

どうして本が好きではないの？

本を読むのが好きではない理由としてもっとも多く挙げられたのが「文字を読むのが面倒」であるとの回答でした。この傾向は学年が上がるごとに強まっていき、高校生では回答の６割を占めています。

小学２年生は唯一この項目の割合が下がった学年でしたが、代わりに上がったのが「どんな本を読んだらいいかわからない」「おもしろい本にあったことがない」という項目です。これは適切な選書及び案内によって今後の継続的な読書につながる可能性があることを示しています。

子どもが読書よりしたいこと

小学２年生以外のすべての学年で増加傾向にあるのは、「テレビ・ゲーム・スマートフォン・タブレット（平成 29 年時：携帯電話）」の項目です。例外的な傾向を見せた小学２年生は「友だちと遊ぶ」が 47%ともっとも多く、この数字は前回のアンケート調査時から大幅に増加しています。

新型コロナウイルス感染症の流行により、施設の利用制限やイベントの開催中止などが相次ぎました。従来、「本に触れる機会」として新規来館を促すイベントに注力してきましたが、それが困難になったことで、一時的な集客が必ずしも継続的な読書活動へつながるとは限らない現状が浮き彫りになりました。

第３次計画の特徴

第２次計画までの取り組みと今回のアンケート結果から、「何らかの原因によって支援が途切れてしまっても、継続的な習慣のひとつとして読書を取り入れてもらえるような支援をする」ことが急務であるとわかりました。

一方で、中高生の不読率が減少したことから、第２次計画策定後に図書館へ設置した常設ヤングアダルトコーナー（10 代向け図書コーナー）等の取り組みに一定の効果があったものと捉えられ、「子どもたちが読みたいと思う選書・蔵書構成」が読書習慣育成のための一助となることが推察されます。

これらのことから、本計画では、子どもたちの継続した読書習慣育成のため、「魅力あふれる蔵書づくり」と「イベント内容の見直し」を、計画推進の核となる考え方として様々な方策に盛り込んでいます。

子どもの視点に立った読書推進

核となる考え方

魅力あふれる蔵書づくり

今回のアンケート調査で、図書館におけるリクエストサービス（市民であれば月に１冊まで図書館に置いて欲しい本を要望として出せるサービス※）を知らない児童・生徒がいることがわかりました。※購入を約束するものではありません。

読書習慣育成に役立つサービスの広報に注力するとともに、当事者である子どもたちの意見をくみ取り、反映することで、子どもたちにとってより魅力的な蔵書づくりを行います。

イベント内容の見直し

新規来館を促すことを主目的としてきた従来の図書館イベントの見直しを実施し、より読書に親しみを覚えるような企画を目指します。

また、「どんな本を読んだらいいかわからない」層に向けた案内を強化することで読書機会の創出も行います。